



ロイヤル・セランゴール・ゴルフクラブ

エイジシュートは諦めても もう一度プレイしたいオーガスタ

元駐米国大使 斎藤邦彦

日米関係は概ね良好だが トランプ大統領に懸念

大中 斎藤さんは相変わらず、ご多忙の毎日をご過ごされているようですが、最近はどうのようなご活躍をなさっているのでしょうか。

斎藤 1999年に駐米大使を退任した後は、鹿児島島の霧島国際音楽ホール館長をしています。またこれと並行して、日本音楽財団の理事も拝命しております。

大中 駐米大使の頃の日米関係はいかがでしたか。

斎藤 当時は特に問題はありませんでした。今は現実的な危険は増えていますが、基本的に日米同盟はいいと思いますよ。

大中 安倍首相の祖父の岸仲介氏は、アイゼンハワー米大統領と1ラウンドでしたが、トランプ米大統領は安倍首相と2ラウンドもこなしています。これは、両国の関係がいいという証ですね。

斎藤 ただし、トランプ氏の判断力にちよつと問題が……。

大中 でも、大統領の仕事は、共和党のプロパリーの専門家が積み上げるわけですから。

斎藤 本来はそのとおりですが、まだ1000人程しか決まっていらないようです。国務長官のテイラーソン氏の下にいるべき副長官、次官、次官補も欠員の状態です。

大中 それは異常事態ですね。

斎藤 国防総省は国務省より状況がいいようですが、主要ポストは完全には埋まっています。いずれにせよ、トランプ氏は正常な判断が出来る人だとは思えません。

大中 昔、友人がトランプ氏と不動産取引をしていた時に同席したことがあります。しかし、当時とあまり変わっていませんね。

斎藤 先日強行したパリ協定からの離脱に関しては、G7でも批判を受け、政権内部でも、テイラーソン氏を始め、彼の娘婿で、大統領上級顧問でもあるクシュナー氏も懸念を表明しています。ピッツバーグの炭鉱など、彼を支持するラストベルト（五大湖周辺の斜陽化した重工業地帯）の雇用確保を優先しているようですが、それよりも、新エネルギーの開発や対応に力を注いだ方が、雇用拡大にははるかにいいと思いますよ。

大中 その辺りは、麻生副総理がTPPを含め、ペンス副大統領と協

議を進めて行くようです。G7のみならず、世界における日本の地位は、確実にレベルアップしていると思うのです。

斎藤 そうですね。毎年政権が交代していた時と比べたら大違いです。

大中 世界の中で日本が平和国家を建設しようとするには、政権が安定して各国との協調が必要ですね。斎藤さんが駐米大使の頃のインバウンド（訪日外国人）人口は、500万人位でした。

斎藤 そうです。現在のように1000万人をはるかに超える規模になるとは、夢にも思いませんでした。しかも、来日した外国人のほとんどが親日になって帰国しているようです。政府だけではなく、民間も努力していますね。

大中 熊野古道や日光東照宮、伊勢志摩では、お年寄りが片言の英語を話すほどで、日本も確実にグローバル化が進んでいると言えますね。ところで、海外勤務は何回ですか。

斎藤 最初の英国研修を入れて7回です。スイス、マレーシア、フランス、EU代表としてベルギー公使、イラン大使、米国大使です。

大中 ベルギー当時は結構ゴルフを



されましたか。

斎藤 ええ(笑)。

大中 駐米大使の時も全米を周ったのでは。少なくとも15州程度は。

斎藤 いえいえ、そんなにありませんよ。

大中 ランチと19番ホールではいいですが、どうしても日本ではビジネスゴルフ、接待ゴルフになりがちですが。

斎藤 私の場合、外務省の人間でしたので、接待ゴルフの経験はほとんどありませんでした。

大中 ところで、ゴルフをしてよかったですか。

斎藤 もちろんです。年齢や経歴に関係なく一緒にプレイできる点は魅力ですね。

大中 先日他界した、私の師匠であるアーノルド・パーマー氏は「ゴルフは、ボールがあるまま、そしてカッブイン」だと話していました。

斎藤 同感ですね。会員になっている程ヶ谷カントリー倶楽部は厳格でノータッチ、ノーOKですよ。キャディさんが「ここは6インチです」と言えばそうします。

大中 いろんなゴルフの会に入られていると思いますが、程ヶ谷では「虎

の会」が有名ですね。

斎藤 私は猪年なので「猪の会」、あと「成蹊の会」が年2回あります。外務省関係では「電友会」です。

25歳のスイス時代に

80を叩き出す

大中 程ヶ谷以外で、もう一度プレイしたいと思ったコースは。

斎藤 やつぱり、オーガスタでしょうね。

大中 『世界の名門100コース』に日本の臨海では川奈ホテルゴルフコース、山間では広野ゴルフ倶楽部が掲載されています。

斎藤 残念ながら広野には行ったことがありません。川奈は年末年始に行っていた時期がありました。いいコースですね。でも後半は坂がちよつとね。(笑)

大中 オーガスタは大使時代ですか。

斎藤 そうです。マスターズの2、3週間前にアトラントの市長に呼ばれてメンバーと一緒に行ったのですが、すでにコンディションが整っていません。芝が綺麗で、そして凄く難しいのです。アマチュアのティーが100ヤード程前にあるのです。

大中 そんなに前ですか。

斎藤 ええ、前から打てばそれほど難しくはないのですが、あのグリーンの速さは見たことがありません。

大中 私の話で恐縮ですが、初めてペブルビーチに行った時、フロントの前の白で打ったら、2打目が全部バンカーだったので翌日ブルーから打ったら42でした。私ぐらいでは飛んでも200ヤードですから、前で打つとちょうどバンカーに入るように設計されているんですね。ゴルフ歴はどの位ですか。

斎藤 57年になります。25歳の時に30回程のラウンドで、スイスで80を出しました。もしかしたら才能があるんじゃないかと思いましたが、それが生涯で最高スコアとなつてしまったようです。(笑)

大中 しかし、凄過ぎますね。結局何がよかったんですか。

斎藤 全部ですね。一番熱中したのは、スイスから帰国後結婚してからです。

大中 奥様もプレイされるんですか。

斎藤 ええ。それからマレーシアに行つて、開業1900年のロイヤル・セランゴールという伝統ある素晴らしいゴルフ場で、一生懸命打ち込みました。ここでハンディは13でした。

大中 今でも奥様と一緒に。

斎藤 マレーシア時代に妻がゴルフを始めて、今でも年に2、3回はカートですが、プレイしています。

大中 最後に夢のエイジシユートとホールインワンはどうですか。

斎藤 エイジシユートはもう諦めています。ホールインワンは1度もありません。近いのは15cm位ですね。

大中 ホールインワンが入る時は見事に吸い込まれて行きますよね。

斎藤 私が多少なりとも自慢できるのは、ゴルフ歴1年足らずでスイスで80を出したことです。オーガスタでプレイしたグリーンが、本当に今まで見たことのないような速さで、4パットを4回で99でまとめたことです。

大中 それでも凄いですよ。他に自慢できることは。

斎藤 宮里藍ちゃんがプロになった翌年あたりに、エリエール・オープンのプロアマと一緒に周りました。そこで、彼女の言葉遣い礼儀正しさに感心しましたね。

大中 米国のパーマーもニクラウスも紳士ですね。

斎藤 まさしくゴルフは紳士のスポーツですね。